2-4 さらにあると便利な機材

これまでに紹介した機材があれば、デジカメで撮って画像を加工する作業はとりあえずできる。しかし、撮影目的によっては次のような機材を用意しておきたい。

記録型DVDドライブ

ハードディスクへ保存しただけでは、万一の故障時などに不安が残る。最終的には記録型DVD（DVD-RやDVD-RAMなど）に保存しておこう。

デジタル画像ではフィルムが存在せずデータしか残らないため、元データが消えたら「それでおしまい」だ。ハードディスクと同じ内容を記録型DVDにも保存し、同じデータを二重三重にバックアップするのがいい。

昔はCD-Rを使うこともあったが、容量が約700～800メガバイトと少ないためあまり役に立たない。ただ、画像原稿を出版社やデザイナーに郵送する場合にはCD-Rが役に立つ。記録型DVDは記録型CDにも対応しているので、DVDドライブのほうが有利だ。

印刷原稿のやり取りでは、MO（光磁気）ディスクを使うこともある。そのためにはMOドライブが必要だ。CD-RやDVD-Rは、特に古いパソコンや装置では書き込みエラーが発生する場合もあるため、MOディスクを使っている人も少なくない。

記録型DVDドライブ。USB接続の外付けタイプが便利。本体に組み込まれているパソコンもある（写真はBUFFALO社のDVSM-XL20IU2）

画像サーバー

ここで言うサーバーとは、日常使用するパソコン（これをクライアントと呼ぶ）からネットワークを介して接続される集中管理用のコンピュータのことだ。

デジタル画像を扱うということは、フィルムの代わりに画像データを蓄積していくということだ。そのため、画像データの保存に細心の注意を払わなければならない。データが消えてしまえば、もう何も残らない。そのため、パソコンのハードディスクに保存した画像データを、さらに記録型DVDなどの外部メディアにバックアップして二重の安全を図る必要がある。

データが増えてくると、ディスクの空き容量は減りDVDは増えて……と、段々収拾がつかなくなっていく。それに対処するため、大容量ハードディスクを内蔵したもう1台のパソコン——画像サーバーを用意するのだ。さらに、画像サーバーのデータを記録型DVDや外付けのハードディスクにコピーし、二重三重のバックアップを取っておく。

単にファイルを保存するだけなので、画像サーバーの代わりにネットワーク対応ハードディスク（NAS）を利用するのもいいだろう。別途パソコンやOSを用意する必要がないので、設定も簡単で経済的だ。

自動車用インバーター

自動車のシガーライターソケットに接続し、12V直流の自動車バッテリー電源を100Vの交流に変換する装置。自動車用品店やホームセンターで入手できる。

自動車にカメラや他の撮影装置を積んで行動するフォトグラファーの場合、インバーターがあればノートパソコンやデジカメ用電池の充電が簡単にできる。とにかくデジタル写真は電源が命。普段はあまり使うことがなくても、いざというとき必ず役に立つ。